

令和5年度 宮前区地域デザイン会議

“みどり”でつながる宮前区 ～みどり×落ち葉～

令和5（2023）年9月26日（火）14:00～16:00

00:00:00

開会・あいさつ

企画課 寺田

それでは定刻となりましたので、ただいまから令和5年度、宮前区地域デザイン会議を始めさせていただきます。私は本日の進行を務めさせていただきます、宮前区役所企画課の寺田と申します。よろしくお願いいたします。それではまず初めに、開会にあたりまして、宮前区役所企画課長の小出からご挨拶をさせていただきます。

企画課 小出 00:42

皆さんこんにちは。本日はお忙しい中、宮前区役所地域デザイン会議にご参加いただきまして誠にありがとうございます。私は宮前区役所企画課長の小出と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、この地域デザイン会議という言葉がまだ耳慣れないかと思えますけれども、これは、以前行われていた区民会議に代わる新しい参加の場として、地域の課題を区民の皆さんと参加と協働によって課題解決に繋げていくことを目的に、それぞれの区で実施するもので、一昨年度から今年度までの3年間を試行期間として実施しているものです。

宮前区では、昨年度までの2年間は、市民活動の盛んな宮前区民の皆さんのニーズが高いイベントや活動する場所を少しでも増やすために、これまでいろいろなハードルがあって、市民の方に使いにくかった施設を、一定のルール化を図って、使いやすくすることで市民活動の場を増やしていこうという取り組みを行ってきました。

今年度は、“みどり”でつながる宮前区：“みどり”×落ち葉をテーマに、公園緑地の関係団体や区民の皆さん、行政が参加するラウンドテーブル方式で意見交換を行います。公園にたくさん落ちる落ち葉は、公園愛護会などの公園管理団体によって集めていただいておりますが、大量に集めた落ち葉は、そのほとんどが廃

棄物として焼却処分されているのが実情です。公園の落ち葉は清掃するのも大変な労力ですし、担い手不足も生じています。燃やせばCO2も発生いたします。こういった課題を、区民の皆さん同士が、また行政と繋がることで解決することを目指して取り組んでいきたいと考えています。

企画課 小出 02:36

折しも、川崎市は来年の7月で、市制100周年を迎えます。そして同年、全国都市緑化フェアが川崎市が開催都市となって開かれます。お手元にも周知のための手提袋を差し上げておりますけれども、全国都市緑化フェアは、昭和58年から毎年全国各地で開催されている花と緑の祭典です。川崎市では、これまでの歴史や資源、強みなどを振り返り、次の100年に向けて、緑について、皆さんと一緒に考え行動することで、誰もが暮らしやすく、住み続けたいまちへと繋げていくという目的で開催いたします。1年前の今年度から、プレイベント的な取り組みが市内であちこち始まっております、ちょうどお手元に最新版の市政だよりの10月号お配りさせていただいておりますけれども、100周年と緑化フェアのプレイベントの特集が組まれておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

この宮前区地域デザイン会議も、テーマを公園の緑に関連した「公園の落ち葉」を取り上げまして、この100周年と緑化フェアの機会に、区内の緑に関する取り組みがさらに広がるきっかけとなればと考えております。本日は公園に関わる取り組み、落ち葉に関わる取り組みに関する課題を皆さんと一緒に共有しながら、よりよいまち作りを、一歩でも前に進めていければと考えておりますので、どうぞご忌憚のないご意見をいただければと思っております。今日はよろしく願いいたします。

00:04:29

参加者紹介

企画課 寺田

それでは本日の会議の参加者をご紹介しますので、お手元の資料1、出席者名簿をご覧ください。

まず初めに市民参加者の方をご紹介します。五十音順でお名前をお呼びいたしますので、手を挙げていただきますようお願いいたします。

まず社会福祉法人、はぐるまの会、はぐるま稗原農園施設長の新井多佳夫さん。

続いて野川はあも会長の伊藤菊代さんですが、仕事が急遽入ってしまいまして本日はご欠席となります。

続きまして有馬在住で、落ち葉の活用に取り組まれている大島京子さん。

自主保育 B.B だん代表で冒険遊び場ネットワークの活動もされている大西由紀野さん。

続きまして冒険遊び場ネットワークの久保浩子さん。

花の台町内会の美化部長で、宮崎第4公園緑地愛護会でも活動されている齊藤公子さん。

宮前平こども文化センター館長の鈴木武さん。

花の大町内会の副会長で、宮崎第4公園緑地愛護会でも活動されている林靖さん。

野菜だいすきファーム代表で、川崎市生ゴミリサイクルリーダーを務めていただいている松下長子さん。

企画課 寺田 06:17

続きまして行政側の出席者をご紹介します。

南宮前区長です。宮川副区長です。宮前区道路公園センターの矢口所長です。宮前区道路公園センターの鈴木担当課長です。宮前区道路公園センターの加藤担当係長です。続いて宮前区役所まちづくり推進部企画課の小出課長です。宮前区役所まちづくり推進部企画課の小西担当係長です。環境局生活環境部廃棄物政策担当の山本担当係長です。

また本日の会議の進行に際して、石塚計画デザイン事務所の千葉さんと吉川さん。お二人に記録作成および進行補助をお願いしておりますので、よろしくお願いいたします。

それではまず、企画課の小西から本日の会議の流れと会議の趣旨等についてご説明させていただきます。

00:07:42

(1) 落ち葉の活用をテーマとした理由等について

企画課 小西

企画課の小西です。私の方で最初の説明をさせていただきますよろしくお願いいたします。お手元の資料3

の1スライド目を見ていただければと思います。先ほど小出課長の方からも説明ありましたが地域デザイン会議が、どういう会議なのかというのを簡単に説明させていただきたいと思います。

こちらにあります通り、元々区民会議というのが平成18年から約12年間動いておりました。こちらは区内の団体推薦町内会の方や商店街の連合会の方から推薦いただいた方、あるいは公募の市民の方などが集まり、区民会議という形で任期2年で12期やってきました。大きな役割としては区内における行政への参加と協働による地域課題解決の二つの機能を担っていたところでございます。

川崎市としてはこの平成31年にコミュニティ政策の基本的な考え方、社会が複雑化する中で、また新しいコミュニティのあり方を検討する大きな方向性がありまして、この二つの機能がわかれています。今回の地域デザイン会議につきましては、区における行政の参加の機能として意見交換して議論し実践繋げていく場として、今年度は落ち葉の活用というところで取り組みを進めているところでございます。参加と協働という役割につきましては、ソーシャルデザインセンターとして、今年の5月にみやまえBASEというものがスタートしました。本日大島さんもお参加いただいているところですが、こちらは市民の方が参加して、いろいろな地域の方を繋いだりし、課題解決に繋げていくような取り組みをしているところでございます。この取組とも連携しながら進めていきたいというふうに考えております。

企画課 小西 10:08

続きまして、本日の会議の流れを説明させていただきたいと思います。6つございまして、冒頭でなぜ落ち葉の活用をテーマにしたのかという説明をさせていただいた後に、落ち葉に関する公園管理の現状と課題として、宮崎第4公園の公園愛護会の方に説明していただきます。

その後に、3番で落ち葉の活用事例ということで他都市の事例や区内で取り組みいただいている方に発表していただきながら、事例を共有していただいた後に、4番でアイデア出しをしていただきたいと思います。お手元に黄色と青の付箋があるかと思いますが、そちらで簡単なアイデア出しをしていただければ、後の意見交換に向けた作業をしていただきたいと思います。ここで、意見交換ということで、11月に事前にお伝えしているところでありますけれども、11月25日に今日のアイデアをベースに、実際落ち葉を活用したイベントをやってみようというところを目指しておりますので、それに向けた意見交換ができればなと思っています。6番でそのイベントの内容について説明して、本日終了という形で考えております。

企画課 小西 11:17

まずは落ち葉活用をテーマとして選定した理由について説明させていただきます。スライド4・資料3を見ていただければと思います。

まずなぜ落ち葉かというところですが、今年の5月の宮前区のまちづくり協議会の農フォーラム2023で農に携わる方からの発信というような部分がありまして、区内の取り組み事例の紹介の中で、公園の落ち葉を普通ゴミとして捨てている事例があり、他都市では捨てないで堆肥として活用しているよという話があったため、それだったら区民の方からも使いたいというご意見も出たため、宮前区としても何か取り組むことがあるんじゃないかということで、今回、今年度の地域デザイン会議のテーマにしたところでございます。

先ほど説明しました通り、この取組を広げるきっかけとして11月にイベントをしますので、それに向けて今日アイデア出しの会とさせていただければなと思っております。その他、落ち葉の清掃、担い手不足というところもあり、捨てていた落ち葉を活用することで、公園清掃の負担軽減にも繋がるんじゃないかというところまで踏み込めるといいかなと思っておりますので、いろいろとご提案いただけると助かります。

企画課 小西 12:28

続きまして総論になりますけれども、公園から出る落ち葉について、現在どういう状況なのか簡単にまとめているところでございます。このリード文の1ポツ目に書いてありますけれども、公園から出る落ち葉の廃棄物については、宮前生活環境事業所が把握していますので確認したところ、公園だけのゴミの量というのは把握してないんですけれども、町内会や自治会から出るそのゴミというのが年間約530件あって、そのうちの約半数の260件が公園から出る落ち葉のゴミだということでした。ただ1回当たりどれぐらい収集しているのかというのはわかんないということで総量はわからないんですけれども、例えば花の台町内会さんですと1回で200袋ぐらい出ることもあるということを聞いておりますので、量としては相当なものかなと思っております。

参考に1日当たりの廃棄物のゴミの排出量については年々減少傾向になっているというところで、一部コロナの影響で、普通ゴミが増えておりますけれども、その後減少しているというところで全体のゴミとしては減っており、落ち葉のゴミというものもさらに削減できるんじゃないかというふうに考えております。

企画課 小西 13:30

続きましてスライドの06を見ていただきますと宮前には公園どれぐらいあるのかというところになります

けれども、街区公園が201ヶ所、近隣公園が5ヶ所と風致公園というものが1ヶ所ございます。マップで簡単に示しておりますけれども、街区は小さな公園で半径250mに住んでいる方が利用する公園を想定した.25ヘクタールを基本とする公園で、近隣公園については半径500mに住んでいる方が利用する2万平米の公園です。風致公園というのは自然の風景などの動き味わいを感じられる公園ということで、宮前区だと風致公園は1ヶ所あり東高根森林公園となっています。

参考にマップ上に5000平米以上の公園の名称を記載しております、多く住まれている田園都市線沿いに大きな公園が集中しているという状況でございます。

続きまして公園の管理どうなっているのかというところですが、スライド7をご覧くださいますと基本的に公園の管理については、各区の道路公園センターが行っており、公園数が多いので、特にこの公園の清掃や美化活動については、町内会自治会等で組織する公園緑地愛護会と、公園運営協議会というのが報奨金を交付してボランティアで活動していただいています。宮前区で言うと公園緑地愛護会が74ヶ所、公園運営協議会というのが88ヶ所あり、公園運営協議会については、公園緑地愛護会と比べて役割が多く、樹木の下枝落としや低木の刈込のほか、軽易な遊具の補修、町内会が行う盆踊り、ゲートボールの利用調整も行っているような状況でございます。一旦総論になりますけれども私の方は説明を終わらせていただきます。

企画課 寺田 15:23

ありがとうございました。続きまして、括弧2、落ち葉に関する公園管理の現状と課題について宮崎第4公園の公園緑地愛護会の林さんご説明をお願いいたします。

00:15:26 (2) 落ち葉に関する公園管理の現状と課題

宮崎第4公園 公園緑地愛護会 林 靖さん

花の台町内会の宮崎第4公園を管理しています、林です。先ほども説明がありましたけど、遊具側も比較的広くて、また緑も多く、本当に雑木林の一手手前のような、ちょっと我々では手当が出せないぐらい木も伸びて、この間も、倒木がありまして、自分で自分の身を守っていかないといけないような非常に自然の多いところなんです。

公園管理を現状からしますと、基本的には年4回、公園清掃をやっています、3月と6月と9月と、12月という3ヶ月ごとにやっております。ちょうど先日の日曜日が川崎市統一美化ということでやりました、まだ9月は、比較的落ち葉が少ないんですけど。それでも50袋から60袋ぐらいのゴミ袋が発生しまして、次の12月と3月というのが、本当にすごい量の落ち葉がございまして、先ほど200袋という、実力値なんですけど、正直、いつも時間切れを待たないと駄目な状況です。

9時から大体11時ぐらいまでやっていますが、全部いることは不可能なので、大体10時半ぐらいになったらもう最後のひと袋にしてくださいということで、大体100袋ぐらいが実際なんですけど、本当に拾えば多分200袋以上、多分300とかぐらいの分量があるぐらい、たくさんまだあるので、それで担い手不足ということで最近はずいぶん私も小学校とか学校推進教育会議とかで、一生懸命小学生とか先生とかにぜひ宮崎第4公園が広くて、すごく気持ちいいところだから、公園清掃来てねということで言っています。

なかなか最近増えてきて、昨日一昨日は40名35名ぐらいの人が来てくださって、過去最大レベルの人数だったんですけど、通常少ないときは本当に5、6人で、私も61歳なんですけど私が一番若手で、いろいろな力仕事しなきゃいけない中で、落ち葉が拾いきれないということで、公園清掃という観点からすると、なかなかどうなのかなというところはあります。

林さん 19:00

だいぶもう10年以上前だと思うんですけど、落ち葉利用からすると、落ち葉プールとか堆肥、蓄積場みたいなことで、落ち葉の活用を多分道路公園センターの方でやられていたんじゃないかと想像するんですけど。私は一切、関わってないんですけど、やられて数年続いていたんですけど、なかなかその日々管理する人がいなかったり、どうしても落ち葉プールとかも、やっぱりメンテしていかないと、長続きしなくて数年後には何かフェードアウトしていったということがございましたので、本当に継続的に持続可能な取組ができれば公園清掃でもう四苦八苦して時間切れを待つしかないというような、大体私が皆さんに言っているのは、ここは取りきれませんからね。暑くなったら休んでくださいということでお話ししているのが実情ですので、何かもし横利用できるのであれば非常にありがたいなとは思っています。

本当にごく稀なんですけど堆肥が欲しいということで公園を清掃すると1袋くださいということで、清掃し、終了時間ぐらいに、取りに来られる方がいたりいなかったりということもありますけど、本当に100袋のうちの1袋なのでそういった需要もここにはあるのかなとは思っています。

とにかく宮崎第4公園は、おそらく宮前区の誇り、素晴らしい自然公園というか、今年のような酷暑でも、ほぼ全面日陰で、小さな子どもも、大人も、熱中症心配しすぎることなく、遊べます。私も、多少ジョギングをやっているんですけど、こんな酷暑のときでも、全て全面1周500mなんですけど、落ち葉になると大変なんですけど葉っぱがこれだけ生い茂っているおかげだと思うので、何とかWIN-WINの関係にしていきたいなと思っております。皆様のお知恵をいただければ、力をお渡しいたしますので、この場を有効な時間にしてまいりたいと思いますので、どうかよろしく願いいたします。

企画課 寺田 22:12

ありがとうございました。続きまして、括弧3の落ち葉の活用事例の紹介として、まず初めに他都市での落ち葉の活用事例について、企画課の小西からご説明させていただきます。

00:22:25 (3) 落ち葉の活用事例等の紹介：他都市での落ち葉の活用事例

宮前区企画課 小西

それでは私の方から他都市の事例ということで簡単に紹介させていただければと思います。このスライドの14番を見ていただければと思うんですけども、京都市スポーツ協会の事例になります。

ホームページで載っている情報にはなりますけれども、京都スポーツ協会が管理している運動公園があり、そこで大量の落ち葉が出ているというところで、排出ゴミの削減に向けた落ち葉の有効活用ということで、堆肥化の取り組みを市内5ヶ所の公園で行っています。完成した堆肥は、スポーツフェスタなどで市民に配布しており、過去の5年分の事例がありますけれども200名とか300名とかそういった方にも配布して、ガーデニングなどに使っていただけているような事例がございます。

京都市スポーツ協会さんはこの堆肥の作り方を、ご丁寧に提案ホームページの方に掲載していただいているので簡単に説明させていただきますと、準備するものとしては広葉樹の落ち葉、米ぬか、または油粕、あとはビニールシートを使って、作業1としましてこの中に落ち葉を入れて水を撒いて人が乗って踏み固めると、2番として落ち葉は15センチから20センチぐらいの厚さごとに米ぬかをその間に撒いて、まさにミルフィーユ状に右側のようにして重ねて、ビニールシートをかけて発酵させます。次のスライドのとおり1ヶ月から1ヶ月半で繰り返し攪拌をさせ、これを繰り返すことで半年間ぐらいで堆肥になるということです。最短でやるとこういったやり方もありますというのが、ホームページに載っておりましたので参考に紹介させていただきます。以上です。

00:24:16 (3) 区内の落ち葉(堆肥)の活用事例の紹介

Rose Walk Gardeners 大島 京子さん

企画課 寺田

ご説明ありがとうございました。続きまして、大島さんから、有馬で取り組まれている Rose Walk Gardeners の活動についてご説明をお願いいたします。資料についてはカラー刷りの Rose Walk Gardeners と書かれたお手元の資料の方をご覧ください。このスライドの方にも投影をさせていただきます。

大島さん 24:49

大島京子と申しますよろしくお願いたします。宮前区有馬から来ました。有馬八丁目なんですけども、元々自転車屋だったんですけど、自転車屋でこの辺を黄色い車で回っていて、ご覧になった方もいるかもしれない。

現在はもう自転車廃業しまして私が絵の教室をしています。次に私が今活動しているエリアです。ローズウォークというのは、こちらのオレンジ色のところ、やまぼうし公園とそれからふるさと公園で、さくら公園にはお友達がいる、そこにコンポストをずっと作らせていただいたりしています。

2014年に夏にローズウォークを始めたんですけども、2014年の冬にはこんな状態で、もう雑草だらけでゴミが散乱したり、不法投棄があったり、ひどい道でした。今年の春になりましてバラが咲いたり、いろいろな植物が生えて緑が多く、皆さんに喜んでいただいています。

これは5月頃バラが、これは白いアイスバーグというバラなんですけどもいろんなバラがあります。散歩によくここの道を選んでくださる方が増えました。植物切り戻したりするんですけども、それを捨てないで全部うちのところに戻して返して、虫たちが分解して、水やりも全くほとんど去年、今年はちょっと異常だったんですけども、去年は一切水やりなしで1回ぐらいやったかもしれない。

もう水やりも全くしなくて済む花壇です。

大島さん 27:17

そんなこんなしているうちにやまぼうし公園を管理している方に一緒にやってくれないかというお誘いがある

りまして、最初はやっているときは良かったんですけども、だんだん一年草を植えて耕して肥料をやってというのはとっても大変。ですから宿根草を植えて、でも宿根草植えると今度切り戻したりそういう残渣が出るんで、それを積み上げておいたら下の方に腐食というんでしょうか、植物だとか、微生物だとか小さな虫たちの死骸とかそういうのはつもりつもって黒いものができて。

それで不耕起で無農薬で化学肥料を使わない花壇作りをやってみたいなと思い、ヤマボウシガーデンでいろんな実験をしたんです。花壇を増設して、これが増設したてのときです。作業しているときでいろんなもう終わっているんですが、今年はまだ2年ぐらいでワーツと花が咲いて、ちょっといらぬテラコッタの鉢受けみたいなものがあり、それを活用して水飲み場というか動物や鳥や昆虫たちが来るような水飲み場を作ってみました。

大島さん 28:53

やっぱり昆虫がすごくお花があったりすると集まってきました、生物多様性ということで、トカゲも増えてきました。ここにカミキリムシっているんですけども、カミキリムシが私なんかバラを育てているとすごく悪者のように思っていたんですが、このカミキリムシは山ぼうし公園に自然に生えているタラの木だけを食へに行く昆虫でした。ローズウオークにアオダイショウが出てきて、やっぱりここにいるトカゲとかそういうものを狙いに来ているんです。

ねずみもちょろちょろしてしまして駆除してくれるかななんていう期待を持っています。土の中の小さな微生物の働きについて調べていくうちにいろいろ気づきました。森や林では何も肥料もやらないのにあんな大きな木が育っている、どうしてだろう。

テーブルスプーン一杯の地中の中に100億匹の微生物が住んでいるんだということを知りました。やまぼうし公園で本格的にコンポストを作り始めました。こうやって、あのスイセンの木切り戻したものとか何でもボンボン入れて落ち葉を入れたりして、やっています。この中にすごいいろんな虫がもう何しろみんなが見るときゃーって言いそうな虫がうじゃうじゃ集まってきます。

次は堆肥作りというかコンポストだけじゃなくて、落ち葉でマルチングをしてみようと思って雑草がすごい生えるんです。これは街路樹清掃で出た落ち葉をもらってきました、ガーッと敷き詰めたんですね。こういうふうには糸状菌が発生します。これが糸状菌なんですが見ていただき、ご存じの方もいらっしゃると思いますけれども糸状菌が発生してどンドンどンドン細かくされて、それでまた虫たちが食べて、今は硬かった土が、手で掘れるぐらいになってきました。まだまだ何年もかかるとは思いますけれどね。

大島さん 31:32

有馬町会なんですけど、そこで落ち葉がこんなにたくさん年間で2000袋近く、ゴミになるんですね。私は8丁目に住んでいるんですけど、8丁目だけをお願いして落ち葉を集めてもらって、これはいつもだったらビニール袋に集めるんですけども、土嚢袋のちょっと大きめなガラ袋というんですかね、土嚢袋より倍ぐらい大きい。

それに詰めてもらって、これをさくら公園やまぼうし公園で、堆肥にしようと思って持ってきました。これがさくら公園でのコンポスト作りです。さくら公園でたまたまこの愛護会の方たちと仲良くさせていただいたので、ここにコンポストを作らせてくださいということで、知人から竹をいただいたんで、それをさして、あとふるさと公園の篠竹、細い竹を買ってきて刈り取ってかごを編むような形で、作りました。こんなの一時間ほどで小さいから作れます。

この看板をつけることで子どもたちはSDGs、これは大切にしなければいけないんだというのが何となくわかるみたいでゴミを捨てることはほとんどないです。皆さん刈り取った草や植物の残渣をここに入れていただいています。さくら公園でも他に落ち葉の活用をこれもマルチです。マルチをすると何がいかというと保湿なんですよ、雨が降らないときでもカバーしてくれると地面が乾かない。むき出しにしてしまうと地面がすぐに乾いてしまうということですね。

大島さん 36:47

そちらはやまぼうし公園の状態です。これが何度も同じようなことを言っているんですけど落ち葉がミミズや小さな昆虫たちに分解されて、微生物に分解されたのが今度、植物の栄養になって、無機物になって植物の栄養になっていき、この循環が常に繰り返されているのが森の中の循環です。それを人間は、掘り起こして、わざわざ苦土石灰をまき、化学肥料を入れてこれを断ち切っちゃっているわけですよ。せっかく微生物と昆虫たちが上手くやっているところに割り込んで、だからそれはあんまりよくないんじゃないかって言うことです。

実験もしました。コンポストの土を入れた。それからマルチに使っていた落ち葉の上の方を取って同じ分量で土を入れて育ててみたんですね。これはあのコスモスなんですけれども、目印のために違う植物も入れてみました。こちらがしばらくすると、右側がコンポストのCと書いてあるコンポストの方の木なんですね。やっぱり緑がはっきりとして、マルチの落ち葉を入れた方はなんだか、窒素不足というんでしょうかね、窒素飢餓というんでしょうかね、あんまり青々しなくてやっぱりコンポストでちゃんと体にした方がいい土になるというのがわかりました。

これは逆になっているんですよ。こっちはミミズコンポストの方の土でやったり、茎も太いですね。違う落ち葉マルチの土を、土というか落ち葉マルチで作った土を混ぜたものなんですよ。やっぱり、茎の太さが全く違う。これが落ち葉をコンポストで堆肥にする理由なんですけどCN比というのはご存知だと思うんですけども、窒素と炭素の比率なんですけどそれがCN比というのは高いというと、落ち葉なんか30から50ほどあって、そうすると分解が遅いんですよ。野菜だとかその柔らかい葉っぱとかは、分解が早い値N比が高いのは、遅く、低いのは早く分解する。だから両方混ぜて、やると、要するに米ぬかは分解が早いわけですよ。微生物の餌になってどんどん分解が進んで、落ち葉に米ぬかを混ぜて、すると分解が促進されるということですよ。

大島さん 37:02

これは分解が始まった落ち葉で、だいぶ細かくどんどん細かくなっていきます。先ほど回したこれがそうなんですよね。発酵と腐敗の違いというのがありますが、発酵は人間にとって有用でその腐敗というのは人間にとって有害でそれだけと同じことなんだそうです。

私はズボラなんで、本当は水をかけて、先ほどおっしゃったように覆いをかぶせてというのを、本当はした方がいいということなんですけども、一切そういうのは、やっぱり公園の景観を自然に守りたいという感じがしましてそういうビニールシートとかそういうもので人工的なものはあんまり使いたくなかったんですよ。それでもちゃんと発酵して熱が上がって、50度から60度ぐらい湯気が上がるぐらい発酵していました。

どんどん進んでいくと今度はこの気持ちの悪いこれはカナブンだと思うんですよ。コガネムシは土の中にいるんですけど、カナブンは腐葉土を食べて、成長するんです。ですから多分これはカナブンだと、これが分解して、これがカナブンの糞なんです。もう細かく肥料のようになっています。

最終的にはこういう形になってサラサラな物質になっちゃいます。どんどん落ち葉もなくなって、落ち葉だけじゃなくて雑草も全部入れちゃいます。お花も何もみんな結構枝とかも入っていますね。分解が遅いんですけども、枝があることによって空気が入るような気がするんですよ、自分の考えなんですけれども、好気性発酵なんで、空気がやっぱりあった方が良いみたいです。

大島さん 39:29

私が最後、私が伝えたいこと。落ち葉を活用するとゴミの大きい減量化に繋がりCO2の削減となる。落ち葉コンポスト、バイオネストとちょっとおしゃれな名前があるらしいんですけど、バイオネストを作り落ち葉がや虫やミミズ、微生物によって分解され腐葉土となります。

その有用性を知ってもらいたい、農薬、除草剤、化学肥料を使わず耕さず、ゴミを出さない、地球にやさしい、生物多様性の公園花壇を増やしていきたいと考えている。公共施設のガーデニングは仲間作り、体力向上、癒しなどなど多くの効果を得ることができます。ご清聴ありがとうございました。

00:40:24 (3) 区内の落ち葉(堆肥)の活用事例の紹介

野菜だいすきファーム 松下 長子さん

企画課 寺田

ご説明ありがとうございました。続きまして、松下さんからご自身が代表を務められている野菜だいすきファームの取り組みについてご説明をお願いいたします。資料についてはお手元の野菜だいすきファームのチラシ等をご覧ください。

松下さん 40:38

こんにちは野菜だいすきファームの松下と申します。私達は2010年ぐらいからなんですけど、生協の主婦が集まって、生産者の畑を借りた野菜を育てたんですけど途中から生ゴミ堆肥と出会いまして堆肥作りも一生懸命やっています。その堆肥を生ゴミ堆肥+腐葉土がとても重要で、まずブレンドして、今は野菜残渣と、生ゴミ堆肥と腐葉土のみで野菜を育てて、販売までしています。

それで私たちは主に神木公園の枯葉を町内会の人に最初はお祭りの日に合わせて回収させていただいたんですが、なかなかこの日が合わなかったりするので、積んでおいてもらったものを声をかけて、もらっていくのと、あとグリーンハイツの檜の葉が多いので、市の回収の前に、住民のかたがいれば声をかけますがなければ黙ってもらってきちゃって、畑に30から50体ぐらいぎゅうぎゅう詰めにして、使っていますが、去年から10アール弱の畑を耕してるんですけど、30じゃ足りなくて50、60ぐらいあった方がいいかなって思っています。だからすごく腐葉土というか枯葉は、私達にとってはちょっとした財産かなと思っています。

松下さん 42:48

それと、生ゴミ堆肥と、皆さん提供して下さるんですけど、割と私達メンバーのと比べて薄いんですね。だから、腐葉土と混ぜて、あと野菜残渣も混ぜて熟成させるんですけど、腐葉土の方も、枯葉の方も生ゴミ

堆肥とブレンドすることで、すごく早く分解する、発熱がすごく一気に進むので、二、三週間、腐葉土は腐葉土で積んでいるんですけど、枯葉が途中で分解した段階のものと、生ゴミ堆肥提供していただいた生ゴミ堆肥をブレンドすると3週間もあると結構良い堆肥ができるかなと思っています。

だから相乗効果という、米ぬかも入れたりするんですが、結構いいしお互いが組み合わさっていい仕事してるかなと思います。それで、生ゴミ堆肥も皆さん今日の論点とずれちゃうんですけど、市の回収に出しちゃって資源になるものなのに燃やしちゃっている。

しかも水分が多くって、すごく効率が悪いんですけど、できたらやっぱりもし資源にしていくんだったら、生ゴミ堆肥の方もしっかり民間がデザイン会議で進めていただけると私達川崎市環境局のホームページに回収ポイントとして載っていますので、もっと堆肥が集まるとありがたいなと思っていますのでよろしく願います。

松下さん 44:56

さっき言ったように、これ、堆肥枠今三つあるんですけどこういう木枠の、それで一番こっちは腐葉土をぎゅうぎゅう詰めにして、2番目には野菜残渣と、冬に枯葉を混ぜて、最後に、生ゴミ堆肥を提供した時があったら、こういうふうブレンドして、一番最後の段階の堆肥にしています。

それで、これ野菜残渣と腐葉土なんですけどほぼこうやって湯気が出るくらい高温になって、結構早く分解します。ちゃんと条件が揃えば。だから枯葉を半年かけて堆肥にするということも一つかなと思いますが、急ぐ場合は、こういういろんなものと分解のさっきのCN比って言ってらっしゃいましたけど、分解の早いものと遅いものを混ぜてあげると、割と早く活用できるんじゃないかなって思います。

これも同じような感じですね。今、私達はローカルフードサイクリングって言って、LFCバック型のコンポストが今流行っているんですけど、そことずっと長年5、6年は一緒にやっているんですけどFarmerにもなって、堆肥と野菜を交換しようみたいな企画もやっているんですけど、そのときはもうこれいっぱいになって、遠方から来る生ゴミとブレンドしているんですけど、宮前区の生ゴミとブレンドできたらいいなというのが夢ですね。

松下さん 46:55

これも、それで今度来年度から橘公園で高津区にあるんですけど、民間委託されまして、その中で、プレゼンのときから菜園のある公園作りというのを私達の方で提案して仲間に入れていただきまして、委託を受

けること本来は設計事務所さんなんですけど、菜園のある公園作りというところでは、私達が進めてもいいことになりました。

それで企画の中で、やっぱり一番は公園の中で枯葉を集めて、その場で腐葉土を作っていくというのが一番かなと思いますので、そういう企画も、1m×3mのプランターを3基、そのうちの一つは、腐葉土バックにしようかなと思っているんですけど、結構橘公園も広いので、全部は任せられないと思うんですが、ゆくゆく町内会の人と話をして行って、公園周りのあたりも腐葉土を詰めるようにしていけたらいいなと思っています。

実験的に、まだ来年の春から始まることですので、予測がつかないんですが、楽しみにして、子どもが楽しめるとか、自然の循環を楽しめる公園作りをしていけたらいいなと思ってやろうと思っています。できた堆肥をこうやって、まず撒いて、濃度がいろいろあって、ちょっと加減が難しかったりするんですけど、濃ければこのくらいの量で大丈夫なんです。

その後、耕して、本当は不耕起でやっとならなくていいなと思ったんですけど生ゴミ堆肥をやったり少しはブレンドしないといけないので、その辺が今ジレンマなんですけど、どんどん乗せていくという方法もチャレンジして行って、なるべく試さないでやっとならなくていいような、しかも結構うちの野菜、定期的に販売していたりするんですけど、この間もマルイさんのところで、地域循環の野菜ということでイベントのついでに販売させていただいたんですけど、結構評判が良かったです。美味しいと言われます。

最初は自信がなかったんですけど最近はやっぱ美味しいかもしれない。特にジャガイモは美味しいと思っています。皆さんまた宮前平に買いに来てください。こんなんで割と今、若い人にアピールしたいようで、カラフルな野菜とかもいっぱい育てるようにしていますし、サラダだけって言うのもなんなんですけどいろんな食べ方も提案しつつ、食を楽しんで自分の体の循環と、自然界の循環とを感じていけるような、地域にしていけたらいいなと思っているんですけど、なかなか地域のもうちょっとミニマムに半径2キロを目指しているんですけど、川崎の北部というか、中原高津宮前みたいな、そんな感じでやっています。

松下さん 51:03 腐葉土って枯葉というのも捨てればゴミなんですけど、確かに畑もそうですし、人の力もすごく必要とされることなんですけど、それを、楽しめる人を増やせば、回していけるんじゃないかなというのが一つあるかなと思います。だから、最小そういうことに興味のある人がコアになって、その楽しさをどうやって伝えていくかということをやっとならなくて人間って電気できていけるらしいので、放電、土に触って放電したりとか、癒される部分ってすごくあると思うんですね。

それで今中原の学童保育で菜園指導者にも入っているんですけど、高層マンションの子どもたちって、土が触れなかったりとか、何と言っても虫という虫、虫であれば何でも嫌という子もすごく増えていて、なかなかこれを虫好きにしてくのはしぶといことだなというのが感じられるんですけど、やっぱり何か人間も動物の一種なので自然界から宇宙にも行けちゃうんですけど、私が年を取ったときに、自然と関わりのない綺麗好きな子、大人ばかりだったら老人として生きていくの嫌だなんて思っている今日この頃なんですけど、なるべく人間味の人間味というのも AI が出てくるとどのくらい人間味が皆わかんないんですけどね。

ちょっとぐらい汚れていてもいいや、乗り越えていけるような、そういうたくましさのある人間も増えていたらいいなって、過渡期なのかな今はって思いたいなと思っています。以上です。

00:53:19 (3) 区内の落ち葉(堆肥)の活用事例の紹介

宮前区道路公園センター (DKC) 加藤 宏希さん

企画課 寺田

ご説明どうもありがとうございました。続きまして、落ち葉を利用した堆肥作りに挑戦している宮前区役所道路公園センターの加藤からご説明をさせていただきます。

DKC 加藤 53:29

改めまして宮前区役所道路公園センター協働利活用担当の加藤と申します。よろしく申し上げます。

年度当初に、みどりと落ち葉というところで何かみどりで繋がる宮前区のようなことをざっくりしたことを言われて、何をしたいのかなと思いつながら、センターの方でできることということで堆肥作りというのをやっていました。スライド 19 番ですかね。昔使われていたコンテナ花壇、縦幅が 45 センチ横が 90 センチぐらいの大きさのコンテナ花壇を二つ使いまして、たまたま宮崎の第 4 公園が手前側の、奥が鷺沼公園です。落ち葉を使わせていただきました。

いろんな公園見に行ったんですけどもナラの木とクヌギの木が豊富な公園、落ち葉がいっぱいある公園というのがちょうど宮崎第 4 公園と鷺沼公園でした。なので、使わせていただきました。5 月 24 日に米ぬかをいただいたので米ぬかを入れてかき混ぜて、置いたんですけども特に変化がないまま 1 ヶ月ぐらいが経過しました。様々な文献いろいろ探してみたんですけども、ミミズをちょっと投入させていただきました。片っぱだけ宮崎第 4 公園の方にミミズさんをいっぱい入れさせていただきました。

道路公園センターの業務で、公園や道路側溝の浚渫（しゅんせつ）のときに、ミミズさんも一緒に連れて帰って来てしまうんですね。それはそのまま産廃として捨てられてしまうんですけどもったいないということで、ここにミミズを投入させていただきました。

DKC 加藤 55:11

その結果なんですけど4ヶ月経った段階で、分解の促進がかなり違っていました。このコンテナ花壇ってアスファルトの上にあるので特に地面に接してないので微生物の発生、追加のものが入ってこれないんですね。なので実際には土の上に置いて、微生物が入りやすい環境を作っていくというのが必要であると思いました。ただミミズを入れたことによって分解の促進が早まったことが確認できましたので一定の効果が得られたかなと思っております。

また、全国都市緑化かわさきフェアに向けた取り組みでプラグ内の栽培というのも行っていて、この下ちっちゃいプランターの中にはまだ完成途中ではあるんですけども、腐葉土として使わせていただきました。道路公園センターの取り組みとしては以上です。ご清聴ありがとうございました。

企画課 寺田 56:08

続きまして、企画課の小西から落ち葉等の遊びへの活用事例を説明いたしますので、資料3、スライド22をご覧ください。

00:56:20（3）区内の落ち葉（遊び）の活用事例等の紹介

企画課 小西

簡単にこのスライド22だけ説明させていただきます。先ほどは堆肥でしたけど、もちろん遊び活用というところで、お話を切り替えて説明させていただきます。ホームページに掲載されているものを簡単に見繕ったところではありますけれども、やっぱり代表的なところでいうと落ち葉プールというのは、割とやられている事例が多かったです。

それ以外にも落ち葉を活用して、こういったけん玉、ヤジロベー、コマ、モビールなど、堆肥だけじゃなくて、子どもたちと一緒に遊びながら、楽しみながら、落ち葉を回収するというのがヒントになるのかな

と感じています。この辺りもこの後またアイデア出ししていきたいというところで事例紹介させていただきました。以上です。

00:57:19 (3) 区内の落ち葉(遊び)の活用事例等の紹介

冒険遊び場ネットワーク 久保 浩子さん

企画課 寺田

ありがとうございました。続きまして、久保さんから、公園を利用して子どもが育つ場、人が繋がる場を目指して取り組んでいる冒険遊び場の取り組みについて、落ち葉に限らず、公園に書いてある資源を活用した遊びなどについてご説明をお願いいたします。資料はお手元の冒険遊び場のリーフレットをご覧ください。

久保さん 57:40

冒険遊び場の久保です。冒険遊び場の活動なんですけれども、リーフレットのところにこちらにあると思うんですが、第2期の区民会議で提案された公園を利用して子どもが育つ場、地域の人々が繋がる場として、冒険遊び場を広めようということを提案させていただきまして、宮前区で、冒険遊び場要項というのを作って、のちのちいろんな担当の方が変わったりとか地域住民が変わってもずっと続いていける活動にしていこうということをやりました。だから、デザイン会議も本当に初期の第2期ですから、区民以外の初めの方に提案させていただいて、それで区と一緒に共同事業という形でやっています。

冒険遊び場のモットーは自分の責任で自由に遊ぶ、怪我と弁当は自分持ちというのに加えてまず、最後はいつもの公園に戻すということで、他の地域でやられている緑地とか、そういうところではなくて都市型の公園であくまでも活動しているので、やはり終わった後はいろんな方が利用されるわけですから元に戻しましょうというのを加えて活動しています。次なんですけれども、初め4団体だったものが5団体6団体増えて活動しています。

一番のポレポレの、あるいはふるさと公園で活動しているのは、実は区民会議でもずっと前にもう30年以上活動していてやはり当時は本当に山の中で、周りも木がいっぱい生い茂る中でのプレーパークだったので、本当に子どもたちは自然の中で森で遊ぶような形で育ってきたのが、だんだん住宅地が増えて水を使う、何を使う火を焚くとかということ、苦情が来てということをやっぱり自然の中で子どもが遊ぶ場というのが宮前区はまだ残っているんですね。

都市型の公園の中でも、水はけが良いようなそういう素材になっていたりとかするのを、まだ土が残っていたりとか、木が残っていたりとかで、多分道路公園センターさんなんか本当に管理が大変になってくるとは思うんですよ。どんどんもう木も大きくなっちゃって、枝が今度は台風とかでってなっちゃうんだけれども、やっぱりその自然の中で子どもが育つってすごい大事で、いつも一緒に区役所の方とかともいろいろやっているんですけど、苦情が多いみたいだね。

久保さん 01:00:50

コロナが終わって、子どもの声が聞こえるようになると、今度は例えば野球の声援とか、何かとにかく子どもの声がうるさいとか言われちゃったりとか。でも、皆さん考えてみたらもう少子化なんですよ。もう子どもがどんどん少なくなっていくのに子どもを大事にしないでどうするかというところだと思うんですよ。

本当は簡単にしようと思っているんですけど、皆さんのその落ち葉の活動とかその自然の中でのサイクルですとか命を循環していく仕組みとか、落ち葉を通して、土を通して、そういう話を聞いていたら本当にここに子どもたちも入れてほしいというふうにすごく思って、本当にこの土ってすごい小さい、乳幼児の子育てにもすごい大事で、土って雨が降ったらしめるとか、乾燥していると硬くなるとか、その少しの差ですごい体が歩くだけで体幹が鍛えられるとか育つとか、そういうのもあるんですね。

やっぱり自然の中で思いっきり走るとか声を出すとか、あと寒さ、暑さ、そういうのもこんなに暑くてもその第4公園のような森の中では風があれば涼しいとか第1公園の隣であとこども文化センターのところで水を使わせてもらうんですけど、水を使って遊べば、クーラーは要らないとか、そういうのをやっぱり肌で体験してほしいというのがあって、落ち葉を利用しての遊びとかってあると思うんですが、あの冒険遊び場プレーパークでやっていると思うのは、もう自然があればOKみたいな。

もう遊具は要りませんみたいな。最近やっぱり公園を使ってのコミュニティということでいろんな遊具を使って大がかりな遊具を使って人を集めて、親子で楽しみましょうというものが出てきていると思うんですよ。でもそれはある意味コミュニティを作るという意味で地域住民を繋げるという意味で人が来てくれないとしょうがないんで、しょうがないかなとは思いますが、本当の子どもたちって例えば落ち葉がバーってあって、誰かがそこで何か遊び出せば、もうそれだけで落ち葉のかけっことか、それだけで十分だったり、ただ掃除をするでも、子どもにとって遊びになっちゃうので落ち葉を集めて袋に入れるだけでもそれはそれですごい遊びだし体験だし、だからそういうものと、先ほど皆さんが提案したような落ち葉から土を作

ってそれで野菜を作ってそれを人が食べてという、そういう命の循環みたいなのをぜひ繋がるような、そういうものを企画できたらなというふうに思いました。

01:04:34 (4) 落ち葉活用に向けたアイデア出し

企画課 寺田

ご説明ありがとうございました。ここでお手元の付箋を使って少し作業をいただきたいと考えています。作業の方法は企画課の小西の方からご説明いたします。

企画課 小西 01:04:48

事前に説明させていただいた通り、ぜひ11月25日に落ち葉を活用したイベントというのを実施したいと考えております。イベント実施に向けて、この後意見交換を行うんですけれどもその意見交換をスムーズにできるよう作業をお願いしたいというところで、堆肥活用と落ち葉活用に分けて、お手元の付箋にご意見とかご提案いただきたいなと思っております。いきなり書けないと思いますのでスライドの25の方見ていただきますと、堆肥の書き方というところで、ポイントを書かせていただいています。

例えば、黄色い付箋の方には堆肥の活用のことを書いていただきたいんですけど、書いていただく視点として、感想とかでも書くことなかったら構わないですし、もし堆肥経験者でしたら堆肥を成功させる上でのポイントやコツとか簡単に書いていただいたり、あるいは堆肥を行う上での課題とかというのも多分あるかと思いますが、臭いが出るとか自然発火しちゃうことが稀にあるとかそういったことも聞いたことがありますけれど、あとは最後のところで、この取組を広げるためにはどうしたらいいかというところでは、担い手と管理方法をどう工夫したら広がっていくかなというところをもしお気づきの点があれば書いていただきたい。

もう一点が遊び活用のスライド26の方をご覧くださいますと、こちらアイデアベースというところで青い付箋の方に、落ち葉、今もう集めるだけで楽しく遊べるって話もありましたけれど、何かこんなことしたら面白いんじゃないみたいなど何でも構いませんので、アイデアベースで付箋で書いていただいて、この後10分程度、今10分なので20分ぐらいまで、書いていただいて、その後休憩を挟みたいと思います。

25分ぐらいにまたスタートになるんですけど一旦10分書いていただいて書き終わりましたら、回収します。その後、協力いただいている石塚計画デザイン事務所の方に付箋を簡単に休憩時間にまとめていただいて、意見交換に入りたいと思いますので、20分まで作業いただいてもよろしいでしょうか？お願いいたします。

ます。書き終わりましたら手挙げていただければ回収します。

01:07:47 (5) 意見交換：堆肥活用について

企画課 寺田

それでは、落ち葉の活用に向けた意見交換に入らせていただきたいと思います。進行については企画課の小西が行いますのでよろしくお願いいたします。

企画課 小西 01:08:00

それでは意見交換を開始したいと思います。手元の資料3のスライド28に概要を書いていますけども、意見交換は先ほどの堆肥活用と遊びに分けて議論したいと考えてます。意見交換ではあらかじめ付箋にコメントいただいた内容も踏まえて様々なアイデアをお出しいただいて、最後、説明します11月25日のイベントにおいて、この場で出たアイデアを取り入れて実践していきたいというふうに考えておりますのでぜひ忌憚のないご意見をいただければと思います。

それではまず堆肥活用について意見交換を行いたいと思いますけれども、先ほど付箋に書いていただいた内容、今このようにまとめていただきましたので、石塚計画デザイン事務所の方から簡単にどんな内容だったかって報告いただけますでしょうか。よろしくお願いいたします。

石塚計画デザイン事務所 吉川 01:08:47

石塚計画デザイン事務所の吉川と申します、よろしくお願いいたします。まずこちら堆肥の活用について文字だけでこちら申し訳ないんですが堆肥作りのポイントに関することであったりとか、あとは活用のアイデアに関すること、そして課題として気になっていることという感じで分類をさせていただきました。まずポイント、堆肥作りのポイントといたしましては、やっぱり生ゴミ堆肥と混ぜると発酵が進んで良いんじゃないかというご意見であったりとか、あとはコンポストの枠については自然素材を使った方が微生物の移動と入りますか入り込む空間ができていいんじゃないかというようなポイントをいただきました。

先にアイデアの方に行きますと、すごいたくさんいただいてむぎゅっとしちゃってるんですけど、落ち葉に埋もれたことある人を増やしていきたいよねということだったりとかどんぐりの笛を普及させたいという話

だったりとか、もっと気軽に堆肥作り、こうじゃなきゃいけないということじゃなくってもっと気軽に堆肥作りができるといいよねというようなご意見をいただきました。

あとは子どもと連携して、最後冒険遊び場のお話もたくさんいただいて、それに共感した方がたくさんいらっしゃったと思うんですけど、やっぱり子どもが体験するってことすごい大事だよねというご意見いただきまして、清掃であったりとか、堆肥作りだったりも枠を作るところであったりとか、それを活用して植物を育てるというところにも子どもに体験してもらいたいんじゃないか。単純に土を触るであったり耕すということだけでもいいんじゃないかというようなご意見がありました。

あと最後には花壇作りとかと連携できるといいんじゃないかというようなご意見がこちら1枚いただいておりまして、ガーデニングというふうにさせていただいたんですけど、ケヤキの落ち葉とかを活用して腐葉土を作って、花壇で出た物とかを入れ込んで出来上がった土とかをまた花壇の活用にしていくという花壇作りなどにも使えるんじゃないかというアイデアです。

石塚計画デザイン事務所 吉川 01:10:54

最後課題のところできく2点挙がっていたんですけど、やっぱり担い手の確保がすごい課題というか考えなきゃいけないよねということで、公園で活動している方々の協力は必要だということと、アイデアにもなるんですけど、リサイクルリーダーのように堆肥マイスターを育てるというのはどうかというようなアイデアをいただいています。

あとは処理する場所をどうしたらいいか考えないといけないのではないかとということで落ち葉は量が多いので、堆肥化するときにその場所の確保ということも大事だということでアイデアとしては、里山とか山に返すってことも考える一つの手段ではないかというようなご意見いただきました。以上が堆肥の活用になります。

企画課 小西 01:11:45

ありがとうございました。それでは、堆肥活用に関して、付箋に書いたことも含めて、ご意見があればご発言いただきたいと思うんですけども、まず何か言いたいことがある方はいらっしゃいますか。まず事例発表もしていただけなかった新井さんとか、もし何かご感想とかでも構わないですけどあれば。

新井さん 01:12:19

社会福祉法人はぐるまの会の新井といたします。よろしく申し上げます。我々社会福祉法人ということで障害

のある方たちの働く場所ということで農業をしております、北部の稗原の地域で活動しています。今回の落ち葉というところで、我々の非常勤の職員今体調崩して今日来られてないんですけども、多摩区なんで西三田団地に住んでいましてその中でせつせと落ち葉を運んできて、私達の農園のところで何か活用できないかというところで声掛けをいただきました。

皆さんのお話を聞いていて、自然の法的なところとか、不耕起栽培というところまではたどり着けていないのが実情なんですけれども、何かこう続けられる、彼らが仕事として続けられる農業を続けていくためには何かしらいろんな、ただ野菜を作って売るだけではないものが必要だろうと思いながらいろいろ試行錯誤をしているところで、私達も逆にアイデアがいただけないかなと思っているところです。

本題とずれてしまったんですけど。その中で落ち葉を実際我々も畑に堆肥というふうにやっているんですが、やっぱり分解が遅いというところは実感としてはありまして、生ゴミの堆肥も木酢コンポストを紹介していただいて、少しずつやってるんですよ。混ぜていくというところが、実感としては一番、たくさんくる落ち葉どうしようって困ると言いますとあれなんですけど、量が多いと溜めておいて腐葉土にしていってもどンドンまた来たよ、また来たよってどンドン落ち葉の山になっていくというところも実際ありまして、その一部を生ゴミとかその発酵が進みやすいところと混ぜてというのが現状ではあるかなと思います。

あとどちらかというと遊びとか、この後の話題になると思うんですけどもその堆肥以外の活用と混ぜていく中で、その中で堆肥化されたものからできた野菜とか、食べ物というのも入っていくと、いろいろと発展するのではないかなと思っております。堆肥化もすごく重要だし続けていくべきなんですけど何か他のいろんなことを活動的なものともミックスするためには場所の手配が大変なんですけども、結構場所が大事になるかなと。重さよりも容積が落ち葉で集まると、さっき 100 袋 200 袋って今おっしゃっていましたがそのところは現実的にはいろんな方の地域のいろんな場所の協力をもらえると進むのかなというふうな感想を持っています。

企画課 小西 01:15:21

ありがとうございます。その他の発表でご発言がなかった斉藤さんとかはどうでしょうか、何か感想でも構わないです。

斉藤さん 01:15:38

今私達はガーデニングクラブというのと、コミュニティガーデンというのと 2つ兼ねてメンバーがだぶっ

て活動しているところなんですけど、コミュニティガーデンはすぐ近くに宮崎台小学校がございまして、18年ほど小学校4年生の、参加がいただけていました。この頃コロナのちょっと前から学校の教育の方針が変わったらしくて、そういう参加するというのを積極的にしなくなりましたので、4年生の特に興味のある子20人ぐらいが参加して、私達大人と同じような行動をしております。

そのときに、楽しいというその印象を強く持っていただきたいということで、作って楽しいもの、それから食べて美味しいもの、そういうものを一緒に子どもたちとちよどしながら作って楽しんでおります。それは週1回なので、それから子どもたちが参加するのは夏休みのちょっと前とか私達がお花を年2回植え替えますので、その時期にイベントとしていろんなことをするというチラシを作り近隣に配っております。

それで、お子様だけで参加することが増えてきましたけど、一時それで大人の方が、まだ乳幼児を含めた子どもたちと一緒に参加するという時期がありまして、安心してその2時間ぐらいのイベントに参加できるということがわかった途端に、大人の方の参加がなくて子どもだけということになって、もうそのスタッフ、その面倒見て怪我をさせないで楽しませるとい、そのスタッフのすごい労力というか、それが大変だったという印象があります。

斉藤さん 01:18:12

ただ、子どもたちは違う場所に来て、そして今までやったことのないことをするという、その興味がものすごくあって、ここで虫取ってもいいの、花の花壇に咲いている花を切ってもいいのというような、そういう何か不思議な言葉をよくいただくので、子どもたちが学校でそういうことをしてはいけません、家庭でお花を取っちゃいけませんというような一般的な常識に則った生活をしてらっしゃる方が多いんじゃないかなと。都会の子どもたちはそういう観念が植え込まれているんじゃないかなという思いがしております。これからはあそこに行ったら面白いというような、そういう印象を付けるようなイベントをしていきたいと思っております。ありがとうございます。

企画課 小西 01:19:16

ありがとうございます。それでは先ほど言った11月25日にイベントするという中で、宮崎第4公園をモデルにやっていきたいと考えているのですが、例えば囲いを用意して、堆肥化するということもできるかなというところ。今アイデアでもいろいろありましたけれども、自然のものを使ってやるといいんじゃないかという意見にありましたけれども、実際その宮崎第4公園で囲いを作ってやるとして、例えば先ほど京都

市のスポーツ協会の事例でありましたけれども、あのようミルフィーユ状にしてやるビニールシートをかぶせるというようなやり方ありましたけれども、ご経験者としてどういうやり方が一番ふさわしいか。先ほどいろいろなゴミを混ぜたらいいって言われましたけども、大体1年のサイクルで回せると次に繋がるのになって気がするんですけど。そこら辺って感想的にどうでしょうか、大島さんとかもしやられて感想的には。

大島さん 01:20:18

生ゴミは入れないようにしたいと。公園なんですね私がやってるのは。虫が出たとか、近隣の苦情が怖いんで、一応雑草とそれから植物の残渣、植え替えした後のお花とかそういったものだけを入れてくださいとお願いしました。

もう結構米ぬか入れて、そうですね2週間ぐらいして、熱がそのときは条件がきつと良かったと思うんですね。土の上直ですし、竹とかを使っているんで、その植物自体にもその微生物がいたりしますから、人工的なものよりも、景観もその方がいいんですね格好が。あのバイオネストって木の枝だとか鳥の巣のように、その中に落ち葉を入れていく。だから何かすごく自然感がいいんじゃないかなと私は思います。

企画課 小西 01:21:35

ありがとうございます。自然の竹材だと大きなものはなかなか作りづらいということですか。

大島さん 01:21:44

今、有馬の梅林公園に Facebook でもアップしたんですけども、結構大きいでしょうか。車1台分のスペース程度の結構落ち葉が出る。マテバシイがほとんど、梅もあるんですけど、分解が遅いということで今朝も見てきたんですけども。枠をちょっとずつ積み上げて竹で編んでいるので、もうちょっと上の方までつくればもっと生えていくので、結構 [広い] 公園ですので、場所はあります。

企画課 小西 01:22:29

ありがとうございます。松下さんとかもいろいろ生ゴミという話も、堆肥化が早いという話もありましたけれど、今回11月25日にやるものは大体1年間ぐらいで次サイクルに繋げたいと考えていまして、堆肥化

して、空いたところで落ち葉を入れるみたいな流れが作れるといいのかなと思っているんですけど、やり方に言うと、1年ぐらいだとどういうやり方が一番効率的というか。

松下さん 01:22:53

やっぱりケヤキだとそのサイクルでできると思うんだけど、イチョウとか桜とか入るともっとかかるかなと思うんですが。生ゴミじゃなくて生ゴミ堆肥だったら、もう多分、生ゴミを移動させるというのは法律に触れることだと思うんだけど、生ゴミ堆肥だったら、多分虫のこともそんなに心配しないで、もっと時間短く分解というか、堆肥になると思うので、1年間の中で例えば夏を過ぎたら、冬に使えるというようなことも考えられるかなと思います。だから最初に生ゴミ堆肥の学習会をすとか、リサイクルリーダー使ってもらって、それでそこに参加した人の生ゴミを、混ぜてやるんだったら早くできるかなとかは考えました。

企画課 小西 01:23:58

ありがとうございますそれぐらいでしたら大体そんなに時間かからずできるかなという感じということですか。途中で入れる感じですかね、最初は。

松下さん 01:24:06

枯葉を集めるときの水分量にもよるんですけど。だから水は多分、水道設備はいると思うんですよね、枯葉って大概すごく乾燥しているので。そこに水と生ゴミ堆肥はもう最初に混ぜちゃう。途中で堆肥作りに詳しい人を1人入れて、みんなで攪拌し、天地返しとかすれば、結構発熱すぐすると思うんですよね。もう2週間、夏場だったら、2、3週間で結構分解進んじゃう気がします。

企画課 小西 01:24:46

ありがとうございます。他に何か今後やっていくに向けての課題とかご意見とかもしある方とかいらっしゃいますでしょうか。どうぞ。

久保さん 01:25:13

堆肥については全然知識がないんですけど、今日お話聞いてすごいなって思って。やっぱりそういうふうにいる人っていると思うんですよね。だから、堆肥を作る経過であったりとか情報とかを SNS とか、そういうので情報発信しながら、興味を地域の中で興味を持っている人達がまた参加できたりとかできるようにし

ていくとすごく嬉しいかなというか。こっちもこの事業というか取り組みを人に伝えるのに、なかなかうまく言葉では伝えられないんですけど、ここ見ればすごいいろいろ載っているよとかすごい面白いよねという話ができるの良いと思います。

企画課 小西 01:26:08

ありがとうございます。

松下さん 01:26:10

[堆肥を攪拌するときも熱に触れることにも子どもは喜ぶし、中からカブトムシの幼虫が出てくるとか] 子どもが楽しめる要素はいっぱいあると思うのでイベントで子どもが楽しめるものを見つけて、子どもが参加をしつつ、堆肥作りをやっちゃうというのはいいかなと思います。今、久保さんの話を聞いていて、別に枯葉集めだけが楽しいことじゃないような気がしました。

大島さん 01:26:59

顕微鏡まではいかないんですけど、スマホにマクロって言うのかな。100円で売っている百均マクロというのをつけて、子どもたちに小さい虫とか、その微生物がこういう菌糸とかを見せて、土の中にはこんな生き物があるんだよ、というとか、観察みたいなものをさせて、それも遊びの一環としてやるといいかもしれない、理科みたいな感じで。

企画課 小西 01:27:30

ありがとうございます。鈴木さん、どうぞ。

鈴木さん 01:27:37

すいません。宮前平こども文化センターの鈴木と申します。よろしく願いいたします。私4月から着任しましたので詳しいことを宮前区の方はわかっていないんですが、以前は麻生区の方のこども文化センターで、やはり公園隣接しているこども文化センターだったり、地域の方と一緒に自然を子どもたちに体験させるという活動をさせていただいた経験があります。

今堆肥の部分のことだけお伝えさせていただくと、地域の方で王禅寺の方なんですけれども、その里山を守る活動されてる方、木こりの会の方がいらっしゃって、公園の管理の方を任されているので、公園の1ヶ所を使って落ち葉の部分を集めて堆肥作りをやっているというところの活動を一緒にさせていただいたことがあります。

問題の部分でやはり、課題の部分で落ち葉を集めておくというところが、やはり確保が難しい。実は宮前平のこども文化センターのところにも落ち葉を集めているところがあるんですけれども、正直やっぱりその場所を確保するのがすごく大変というところがあるので、もし公園の例えば第4公園管理がすごく大変だとは思いますが、一部分でこの堆肥を作っていますという場所を設置して、そこにやっぱり子どもたちにこういうことで作っているんだよというのを公園の中に設置をすることによって子どもたちの意識という部分もまた変わってくるんじゃないかな。

どうしてもやっぱり堆肥は汚いとか、あとはそれに時間がかかる手間がかかるというのがやっぱり悪い印象がある中で、だったら買ってくればいいじゃないというふうな形ではなくて、そういうのを、今日すごく勉強させていただいたんですが、こういうふうな形で作るんだよ、そうすることによってすごくいいことがあるんだよというところを学ぶ場所にもなっていくかなというところがありました。すいません、ご提案をさせていただきます。

企画課 小西 01:29:37

ありがとうございます。まさに今言ったようなところで、11月25日のイベントとしてはいろいろな堆肥あり方は今後相談かもしれませんが、大きな方向性としては、囲いを道路公園センターさんにご協力いただきながらスペースを作って、そこでみんなで入れて、遊ぶだけじゃなくて確かにその堆肥化をするのを、みんな体験する子どもたちもこうなるんだよという、さらにはその後の過程もまた途中で子どもたちに携わってもらえると環境学習にもなるというところで、まだこの場だけでそのやり方とかは決められないかもしれませんが、11月25に向けて、何となくの方向性としては、今言われたようなところで目指して、やっていきたいなというふうには思っております。

あと何かありますか。せっかく今日環境局さんにもお越しいただいているので、何となく環境の視点からこういった取り組みの観点でもしご意見とかご感想とかいただけると。

環境局 山本さん 01:30:48

環境とか廃棄物政策担当の山本と申します。私、今実際に自分が1個人として、こういったことをやっていないので非常に勉強になりました。その上で私環境局の廃棄物政策担当ということなので、ゴミというところで、非常に今までの話の中からはすると視点がちょっと狭くなってしまうかもしれないんですけども。

環境の中ではやっぱり自然共生であったりだとか、あと資源循環とかそういったキーワードがよく脱炭素とかもそうなんですけれどもそういったキーワードがよく出てくるんですけれども、ゴミの現状というところも含めて、今日の皆様で出てきたお話というのはまさにそういったものを全部網羅していて、さらに加えて環境学習という形ですとか、あと将来に向けてというところの視点も非常に多く含んだお話がされていたのかなと思っております。

先ほどの資料の中でも循環の絵があったと思うんですけど。私どももゴミの関係で言いますと、よく規模として直線みたいなことというんですけども直線型の、大量に作って大量に消費していっておしまいというような流れではなくて循環をする。今日の話聞いていてまさにそうだなと思ったんですけど、江戸時代とかそういった本当に昔かもしれないんですけども、昔は本当に循環をしていたんだろうなと。それをいつからか人間が邪魔をして循環が止まっちゃって線になっちゃっているという。

そういったものをまた新しい技術とかを使って循環にまた戻しているというのが、今まさにそこを目指している状況なのかなというのを聞いていて思いました。そういったところもあって、お話いただいているような堆肥作りも含めて、落ち葉枯葉というものを、減らしていく、減らすだけじゃなくてそこにプラスアルファの楽しいという要素もお話いろいろ出ていましたけれども、そういったものを加えていって、何かプラスアルファとして返ってくる。そういったところの、話というのがとてもいいなというふうに思いました。まさにそういったところも、循環といったところもあるんですけども、環境局としてもそういったところは目指していきたい方向というふうに考えております。

環境局 山本さん 01:33:25

あとは環境局というよりは今日聞いての感想になってしまうんですけども。やっぱり誰しものが、例えば地球温暖化とか、脱炭素とか、プラスチックも海洋プラスチック問題とか、言葉は聞いているんですけども何か聞いただけであんまり関心を持たれてないという人もいれば、非常に関心を持って活動されている方もいらっしゃる。

そういった活動されている方の取り組みを見ることによって、自分の中に少し気にかけていたものが、何かその活動を見ることによって少し大きくなっていく、場合によってはちょっと楽しそうだな、ちょっと自分も参加してみようというなところにもし行けば、そういった気にかけている部分というのがどんどん大きくなって行って、また活動に繋がっていくと非常にそういった場が広がって行ってとても大きな取り組みになっていくんじゃないかなというふうにも思いました。

その中でもよくお子さんの話が出ていましたけれども子ども、興味を持ってもらって家族で、みんなで何かやってもらおうというような方向も非常に視点としてはやっぱりありがちかもしれないんですけども、やはりいいんじゃないかなというふうには思いました。すいません。とりとめのない話になってしまいましたけれども身近なところの活動がどんどん広がっていくというふうなところは非常にいいと思いますし、ぜひそういったところも、後押しできればというふうには思っております。以上です。

企画課 小西 01:34:54

ありがとうございます。時間もちょっとありますので堆肥については、いろいろとご意見いただきまして、まずはやってみたいというところで、スモールスタートになるかもしれませんが、公園でやってみたいというところで、子どもたちも巻き込んで、この堆肥の良さというの、しっかり子どもたちにも伝えていきたいというところかなというふうに思います。

01:35:23 (5) 意見交換：遊び活用について

企画課 小西

時間の都合上、堆肥については一旦これで意見交換を終わらせていただきまして、続きまして遊び活用というところで、先ほどの子どもの観点と繋がりますけれども、実際堆肥化以外にも、子どもに楽しんでもらうやり方はあると考えておりまして、いただいた意見を、石塚さんの方に簡単に報告をいただいてから意見交換をしたいと思います。

石塚計画デザイン事務所 千葉 01:35:40

続いて遊び活用について、青い付箋を中心にいただきました。結構ね、堆肥とも重なってくることもありですが、まずキーワードとして自然があれば遊びになるみたいな話がありました。なので、どんな遊びがあるか子どもたち自身が考えてみるというのも大事だよねという話がありました。

そんな中でいろんなアイデアをいただいたんですけど。チーム対抗で落ち葉を集めてみるということもあるし、その集めた落ち葉で自由に遊ぶ、例えば落ち葉を掛け合うとか、落ち葉プールにしてみるみたいな話もありました。そしてこっちでも出てきていたんですが、その中で生き物を見つけていくということが何より良いよねという話はこっちにも出ていまして、生き物を探そうとか観察というようなことを、落ち葉を集める中で体験できるんじゃないかという話がありました。

あとさっきも出ていましたけど虫取りというのものもあるよねみたいな話がありました。一方親世代も実は遊んでないんじゃないかという話もあり、子どもがやるだけではなくて親も一緒に関わっていくという、こういう関係でいくことも大事だよねというアイデアも出ていました。

あと、工作という面ではどんぐり人形にペイントしてみようとか、あとドリームキャッチャーを作るとか、顔コンテストって公園で集めたもので顔を作る、それをコンテストにするというようなアイデアも出ていました。こうしたものを作るということに元気なシニアの力を借りて道具から作っていくというようなそういう関わりもあるよねというアイデアもありました。これは時間がかかると思うんですけど、どんぐりを育てて成長をコンテストにするというようなアイデアもありました。

あとやっぱり食べ物ということで焼き芋というのもいいよねという話が出ていました。こっちの最後の方で出ていたように落ち葉を里山に戻していくみたいな話というのもこっち側にも貼られていたんでその辺もご報告でした。以上です。

企画課 小西 01:37:41

ありがとうございます。今、報告いただいた部分も含めてまた意見交換していきたいと思います。事例発表を行っていない大西さんはどうでしょうか？もしご感想でもいいので、いろいろいただけると。

大西さん 01:38:01

いろいろ思うところもあるんですけども。うちの夫の話になるんですが、小学校2年生のときから宮前区今の場所ですずっと育てておりました。私、今日お休みだった伊藤さんがやってらっしゃる野川はあもにも家族全員で参加しているんですけども。私が先に野川はあもを知って夫を連れて行ったところ、自分がここに引っ越してきた頃はこういう里山まだいっぱいあって、まだこういうところが残っていたんだって言って大変面白くなったみたいで、それから夫も一緒に本当に家族全員で参加するようになった経緯があります。

ふるさと公園もずっと遊んできていたところに、その子どもが来てまた自分が遊んでいた公園でまた子どもが遊ぶことの手伝いになるというか、それも楽しいみたいでポレポレの活動にも一緒に来ています。宮前区で育ったもう今、うちの夫も50代ですけれども、それぐらいの人たちでその地域のその活動に参加するってなったときに、その例えば町内会の中に役員として参加してとかというよりも、もうちょっと軽い気持ちで入ってくれるというのは、こういう活動に関してあるんじゃないかなというのが思ったことです。

あともう一つは、子どものその虫が触れないとか、土が触れないとかというのはおそらく皆さんが思ってるよりも深刻です。だいぶ深刻だと思います。何を隠そうも今も誰も信じてくれないんですけど、私は自主保育12年目なんですけど、第一子の時は公園に連れてって、子どもが泥だらけになられるのがすごく嫌で、それでも子どもにはさせたいんだけど、汚れるのが嫌だったんで冒険遊び場に行くようになったんです。そうするとそこには泥だらけの子たちがいっぱいいるから、1人で連れて行くよりちょっとおおらかな気持ちで子どもと過ごせたりする。

落ち葉に対しても多分ジャンパーのところにはいっぱい落ち葉引かかるとかお母さんが子どもだけ、お母さんと子どもだけで公園行くとちょっとやめてって言いたくなるようなところでも、こういうイベントがあったりとかという中だと、おおらかに見えてというその中で子どもが体験できるということもあったりするので、こういう今回の11月の活動もどういう形で関わられるかなというのを考えながら今日参加させていただいています。ありがとうございます

企画課 小西 01:40:27

ありがとうございます。本当に多分冒険遊び場も今までこういう公園を活用した遊びというのはやっていたと思うんですけども、堆肥みたいなところも掛け合わせると、環境学習もできて非常に面白いんじゃないかなという観点があるので、そこら辺はぜひまたご協力いただくと助かります。

それ以外にまたご発言のところ、鈴木館長ももし今度は堆肥活用以外での公園の遊びの観点とかあれば、お願いします。

鈴木さん 01:40:56

私どもやはり遊びの部分を主としてやっておりますのでどちらかというところのお話を長くしたいなというところがあるんですけど、ただもうベースの部分がやはり遊ぶということで学んでいくというところはやっぱり、勉強して何か触れ合うというよりもどちらかというところやっぱ遊びという部分が大切というのは、多

分皆さん共通で多分あるのかなというところで、ぜひ11月は遊びの中でいろいろなものを生んでいってもらいたいなど。

あとはやはり今お話であったように、親世代の部分が、その汚れて遊ぶとかという部分にすごく抵抗感がある。親自身も虫が触れないって親もすごく多いところがあるので、もう僕は子ども目線で言うと子どもが決めた遊びを親も一緒にやるというふうな形を11月は難しいかもしれないんですけど、そういうのができていくといいんではないかなというのは今日、お話聞いた中でこども文化センターでも取り入れていきたいなと思っております。ありがとうございました。

企画課 小西 01:42:05

ありがとうございます。それ以外に、この遊びの活用の観点で何かご意見とかもしあれば、松下さんどうぞ。

松下さん 01:45:46

私の子どもが今、子育て真っ最中なんですけど、コロナになって、もうやっぱり保育園が休業しちゃうとか、すごくコロナの中で、親が子どもを面倒見るということがすごく比重が高くなっちゃって、地域で子育てというような感じじゃなくなってきて、負担はすごく増えてそのまま来ちゃっていると思うんですね。だからいろんな意味で子育てがしにくいし、衛生関連の、あと余裕もないから、こういう自然遊びとか、共働きだとやっぱり遊びの部分が一番先に削除されちゃう感じがうちの子どもの世帯から感じられるので、やっぱりそういう部分に対して子育て支援というのを、ありきたりの子育て支援というよりも、もっと人間形成的な支援というか、余裕を持って生きていけるような支援というのを考えて、イベントに繋がるといいなと思いました。

企画課 小西 01:43:28

ありがとうございます。新井さんどうぞ。

新井さん 01:43:44

どんぐりの子育てコンテストというご意見を見て思ったんですけどもやはり、堆肥落ち葉も時間がかかる、どんぐりも時間がかかる、単発というよりも、やっぱり続けていける、1回で終わらないで、1年後もしく

は2年後3年後というところはどんぐりすごくいいなと思います。私も子ども小さいあの家の前で、ナラ枯れで、落ち葉とは関係ないけど、公園の木を切らざるを得なくて、それは子どもわからないんですけど、どんぐり植えてたらから家でもう植木鉢から出てきて、じゃあどうしようこれ公園に返そうかというようなそんな子どもたちのアイデアもあることで、何か落ち葉もそうなんですけれどもそこからいろいろ広がるには続けていく長い時間のスパンの遊びが入ってくると大人もすごく入りやすいかなと思います。

企画課 小西 01:44:42

ありがとうございます。まさにあの落ち葉をきっかけとして、こういう機会に毎年とか継続でやる意味では落ち葉って毎年秋ごろ落ちてくるのでそれをきっかけとしてイベントをやるというのは、割と理にかなっているのかなという気がします。ぜひこういったところの、今いただいたようなサイクルが大事なのかな。あんまり張り切りすぎちゃうと続かなくなっちゃうというのが世の常なので、なるべく持続可能なやり方というのも、イベントの中に盛り込みながらやっていきたいなというふうには思います。あと何か、もしご意見とかある方いらっしゃいますでしょうか。よろしいですかね。

01:45:20 (5) 意見交換：まとめ

企画課 小西

時間もありますので、一旦ご意見交換はこちらで終わらせていただいて、今意見交換を簡単に石塚さんの方にまとめていただいておりますので、今の意見交換も踏まえて、まとめて報告いただけますでしょうか？

石塚計画デザイン事務所 吉川 01:45:40

ありがとうございます。簡単に振り返りという形になるんですが。まず生ゴミ堆肥を混ぜるということに関しては公園で実施する場合はその堆肥、生ゴミだと臭いとかも気になっちゃうかもしれないけど、堆肥を混ぜるのであればそのスピードアップということに貢献できるんじゃないかというようなお話があったと思います。

場所の確保について、重さよりも容積が多いのでいろんな人の協力を得て場所の確保が必要ということだったりとか、第4公園で実施する場合はそのこども文化センターさんも近くにあるということで、例えば看板をつけるということでその堆肥を作っているこういう場所なんだよということを周知することによって、お子様への学びにも繋がるんじゃないかというようなご意見などがあったと思います。

あとはそうお子様の話というか子どもも体験できるというところではやっぱり楽しいことがすごい大事だよねということだったりとか、こっちの遊びの方にも繋がりますけど親子で楽しむというところがポイントなんじゃないかというようなご意見だったと思います。

石塚計画デザイン事務所 千葉 01:46:52

ありがとうございます。今追加で入れた大事なキーワードとして、本当に虫に触れるとか、そういったことというのが機会として足りなくなってきた。なのでこの機会を使って虫に触れていくとかということを入れていくことを大事にしてはという、これは親も含めてというキーワードが強調されたのかなというふうに思います。

また、そのうち町会に入るとかね、そういうようなディープな言ったらあれですけど、地域活動ではなく、ちょっと公園で子どもと遊ぶという入口から地域に関わるきっかけということにもなるんだなということ、今ご指摘を受けて感じました。コロナ禍での親の子育ての負担が大きくなって、地域から、そして遊びからどんどん時間が削除されていくというキーワードすごくびっくりというか、そうだよねというふうに思いました。何かから取り戻していくのかというときに地域で一緒にできる、しかも楽しくできることから入っていくということ。

あとこっちに遊びのことは書かれましたけど、何か面白そうなことやっている、堆肥作りなのというようなことが体験できれば、遊びという1日のイベントではなくてどんどんそれを眺めるという時間が生まれてくるかもしれないし、あと例えば育てるということを通して1年をかけて取り組んでいくことになっていく、こういうふうにとんどもとんども生活の中に取り込まれていくということがイベントではなく、作っていくことが大事なんだなというふうに改めて感じました。私からは以上です。

石塚計画デザイン事務所 吉川 01:48:28

補足すると、ごめんなさい、[単発的な] イベントだけでなく定期的に考えるという上では、追加になるんですが落ち葉は毎年発生する、出るもの生まれるものなので、負担なく継続できる仕組みが大切だよねということと、あと先ほど漏れてしまったのが、取組のプロセスを発信していくことでどんどん横に広げていく広がっていくそういったことも、情報発信も大切なんじゃないかというご意見も追加のアイデアとしていただいております。ありがとうございます。

01:49:05 (6) 落ち葉の活用に向けたイベントの実施について

企画課 寺田

どうもありがとうございました。最後に、落ち葉の活用に向けたイベントの開催について、企画課の小西の方からご説明させていただきます。

企画課 小西 01:49:17

資料3の30スライドを見ていただければと思います。もう何度も説明しております通り11月25日土曜日、午前中にこの落ち葉を活用したイベントというのを開催したいと思っております。まさに今日出たようなアイデアを、形にしていきたいなというふうに思っておりますので、ぜひご協力いただける方というのを、お願いしたいなというふうに思っております。そのためにはLINEグループを作ったというところで、31スライドを見ていただきますと、QRコードがございますので、今日だけではイベントの内容は決まらないんですけども、今後今日いただいたアイデアをベースに、ご提案し意見交換しながら内容を固めていきたいと思っておりますので、よろしければこのLINEグループに登録いただければ、その中で情報共有もしていきたいなというふうに思っております。LINEが難しいよという方がいらっしゃればメールでも情報共有いたしますので、ぜひぜひ、ご協力いただければなというふうに思います。説明は以上となります。

01:50:27 閉会あいさつ

企画課 寺田

ではこちらで終了となります。皆様お疲れ様でした。閉会にあたりまして、南宮前区長からご挨拶をさせていただきます。

宮前区 南区長 01:50:34

皆様、長時間にわたり本当にありがとうございました。私先ほど一番最初の説明にありました農フォーラムで落ち葉をわざわざ集めて焼却をしているんですよって話、こんなことでいいんですかねというお話がまさにあった農フォーラムに出席をしていてその話を聞いて、これって、きっと少しあの発想の転換点ですかねちょっと変えて、ちょっとずつ変えれば、何かすごくいいことがたくさんついてくる、落ち葉を堆肥化することの流れに乗れば、本当にいろんなことがついてくる。

特に子どもは町内会自治会さん中心にやっていただいている公園愛護会ですとか、管理運営協議会で大量の落ち葉に苦慮されている話というの伺ってましたし、その愛護会自体に担い手不足とかそういう課題があって、そんなに担い手不足で苦労されている方たちがあんなにたくさんの落ち葉を集めることに苦労して、疲弊されているということもあって、でもその落ち葉って、欲しい人にとっては、こっそり貰っていきたいぐらいの大事な資源であったりする。

それをうまく組み合わせればどうにかなるんじゃないって、こんな目の前に転がっているこれをほっといていいわけじゃないって思っていて区役所の中で話をしましたし、そういうことに興味持って活動してくださっている皆さんにお声がけして、いろいろお話伺いながらこういうことならできるかなみたいなことをしたり。あと本庁の事業局にもこんなこと考えているんだけどって、相談させてもらったりして今日のテーマになってこれだけの皆さんから本当に有意義なお話を頂戴できました。

あとやっぱり子どもの視点、あの将来を担う子どもたちに本当のその環境のありがたさというかそういうことを、せっかく宮前にこんなに緑があって、川崎の中では自然がいっぱい残っているこの宮前に住んでいる子どもたちにそういう体験をさせてあげたいという皆さんのお気持ち、思いそういったものもたくさんいただきましたし、実際の実行力ある方たちがたくさんいらっしゃるという、これも宮前の売りといえますか宝でございますのでそういったことを、全部合わせれば、きっと何かできるって今日本当に改めてそれを確認したというか、そういう思いでございます。

ただやはりいくつかの課題もあるようですので、そういったことにぶつかったときにここにまず今日参加していただいた皆さんそしてそのお知り合い、またそのお知り合いも含めて、力を合わせてその壁を乗り越えて、せっかくこの、こういうことができるんじゃないかという、この今日出てきたこのアイデアを、実を結ぶように実現させていきたいなってふうに思いました。

まずは11月25日に向けて皆様のお力もさらにお借りしたいと思っております。今日は本当にありがとうございました。

企画課 寺田 01:53:49

どうもありがとうございました。最後にお配りしているアンケートの方に実際にご協力お願いできればと思います。記載が終わりましたらそのまま机の上に置いていただいお帰りいただければと思います。また駐車券が必要な方いらっしゃいましたら、後ろにおります職員にお声掛けください。ではアンケート記入終わりましたらお忘れ物のないようお帰りいただければと思います。

終了予定時刻過ぎてしまって申し訳なかったんですけども、本日はご参加いただきまして、また長時間、意見交換等いただきましてどうもありがとうございました。